



研究だより



香川大学教育学部 附属坂出小学校

第 100 回教育研究発表会を終えて

学びに熱中する子どもの育成（2年次）

— 学習意欲を育て、他者と協働しながら考え続ける力を育む授業づくり —



ごあいさつ

校長 小西 憲一
副校長 樽本 導和

陽春の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、本校では平成 30 年 1 月 25 日、26 日の両日にわたり、第 100 回教育研究発表会を開催いたしました。県内外から延べ約 1,450 名の参会者をお迎えし、盛会裏に終了することができました。

「学習意欲」「考え続ける力」「振り返り」「発達支援」等の視点から、たくさんのご意見をいただきました。更なる子どもの成長を願い、附属の伝統を大切にしつつ、地域のモデルとなるような授業を常日頃から創っていかうと全教職員で決意を新たにしているところです。

記念講演をしていただきました東京大学の松尾豊先生、懇切なるご指導ご助言をいただきました京都女子大学の水戸部修治先生、香川県教育委員会、各市町教育委員会、香川大学教育学部の先生方、また、運営にご協力くださいました保護者、ボランティア学生及び関係各位に対して、心より御礼申し上げます。

国語科

第3学年「お気に入りの登場人物を音読で伝えよう - 『モチモチの木』 -」

かたおか 片岡
あきこ 亜貴子

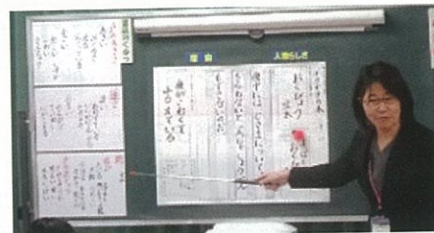
子どもたちは、物語を読んでお気に入りの登場人物を見つけ、その人物らしさを友達に音読で伝えたいという思いをもって学習を進めてきました。まず共通教材『モチモチの木』で人物像の捉え方や想像の広げ方等について学び、場面の様子や人物の気持ちを具体的に想像することが人物らしさを伝える音読につながることを実感しました。本時ではその学びを生かして、自分の選んだ物語でお気に入りの登場人物の人物らしさを捉え、それを音読で伝える工夫について考えていきました。



場面の様子や人物の気持ちを具体的に想像する際には、五感に基づく観点ごとに色分けした付箋を用いました。



その人物を好きな理由について友達と話し合う中で、場面の様子や人物の気持ちをより深く捉えていきました。



これまでの学習で見つけた「音読の工夫とその効果」を参考にしながら、友達の音読について感想を伝えました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・ 共通教材での学びを生かして、子どもたちが友達と交流しながら学びを深めている姿が見られた。
- ・ 友達との交流を通して、自分の音読がどのように変わったのかを実感できる支援があればよかった。

国語科

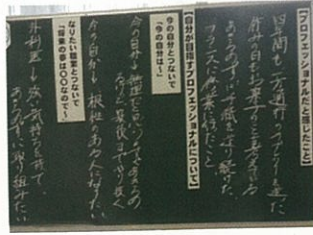
第6学年「自分の生き方について考えよう - 『プロフェッショナルたち』 -」

にしよし 西吉
りょうじ 亮二

これまで、子どもたちは共通教材『プロフェッショナルたち』を読み、これからの生き方について考え、カードにまとめてきました。本時は、3人目の事例であるパティシエ、杉野英実さんの生き方を読み、これまでの2人との共通点や相違点を見つけ、それらを基に自分が目指す生き方についての考えを創造しました。創造した考えを友達と交流することで、考えが多様にあることに気づき、自分が目指す生き方についての考えを広げたり、深めたりしていきました。



これまで読んできたプロフェッショナルの生き方と自分が目指す生き方とのつながりを視覚的に確認できるようにしました。



将来就きたい職業や今の自分とつなぐことで、目指す生き方について、より具体的に考えていきました。



振り返ったことをグループで交流し、協働のよさを実感したり、さらにチャレンジしたいことを共有したりしました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・ 先に読んだ事例との共通点や相違点について考えることで、三つの事例それぞれへの理解が深まった。
- ・ さらにチャレンジしたいことについて、より多様に表出させることで、さらに意欲が高まる。

社会科

第3学年「海へ広がったまち ―坂出市の移り変わり―」

たきい やすたか
滝井 康隆

今と昔の商店街を比べて、昔の商店街にたくさんの方がいたことに疑問をもった子どもたちは、坂出市の昔の姿を探っていきました。そして、塩の町として栄えた後、港や工業が発達し、坂出市が経済的に発展してきた様子を捉えていきました。その際、塩田跡地に、市の経済的な発展に関係なさそうな広大な緑地があることに気付いた子どもたちは、その存在意義を考えました。そうすることで、町づくりに関わってきた人々の思いによって、町の様子が大きく変わること気付いていきました。



坂出市の現在の様子を色分けして示した簡単地図を使って、緑地が工業地と住宅地を分けていることを説明しました。



年表によって、坂出市の移り変わりを捉え、町づくりに関わった人の思いを手がかりに、町の変化を考えていきました。



班や自分の学習活動について相互評価するとともに、感じた疑問を紹介し合うことで、次の学びへつないでいきました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・補助黒板の資料を活用したり、体験を想起したりしながら、既習事項を基に予想することができていた。
- ・導入場面で、疑問を再確認しておくこと、もっと意欲的に緑地を造った理由を考えられたのではないかと。

社会科

第5学年「ワンクリックの先にある社会 ―販売を変える情報の役割―」

てはま だいすけ
出濱 大資

ネット販売を体験した子どもたちは、商品が届く仕組みへの追究意欲を高めました。その利点と問題点について調べる計画を立てた後、子どもたちは、私たちの生活を便利にするすごい仕組みだと認識し、問題点は何か追究し始めました。そこで、本時、配達現場に大きな負担があること知り、解決策を考えていきました。そして、情報のやりとりによって処理される部分と人の手によって行われる部分のバランスが大切だということに気づき、情報化社会への理解を深めていきました。



利用者の生活を便利にしていくネット販売について経済的な視点で見直し、問題点を焦点化していきました。



ネット販売で問題となっている配送業者の労働状況について、具体的に想像しながらグループで話し合いました。



既習事項がまとめられているネット販売丸わかりマップを活用することで、自信をもって説明することができました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・課題を解決した際、子どもたちが自ら社会的事象を見直し、新たな問題を生み出すことができていた。
- ・課題の解決に向けたネット販売のシステムの在り方をしっかり考えていく展開にするのもよい。

算数科

第1学年「120までの数の仕組みを調べよう ー大きいかずー」

しらかわ あきひろ
白川 章弘

数のまとまりに着目し、120までの数の仕組みについて学んできた子どもたちは、サイコロを振った後に指令カードを引く、オリジナルの「すごろく遊び」に挑戦しました。学んだことを基に、「56と48ではどちらが大きい。正解したら10進む」等といった指令カードを作成した後、それらを使って「すごろく遊び」をする中で、大きい数についての理解を深めていくことができました。振り返りでは、「問題を解くことができた」「もっと指令カードを作りたい」等が表出されました。



問題を作りたいと考えていた子どもたちは、教師の例示を参考に、指令カード作りに進んで取り組みました。



お互いの作った指令カードを「なかよしボード」上に置き、問題が難しくないかチェックし合いました。



「すごろく遊び」では、問題の答えや、進む数が合っているかを確認め合いながら、数の仕組みについて学びました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・「すごろく遊び」を通して、数の系列や大きさ等について、対話しながら学ぶ姿が見られた。
- ・遊びの中で何を学ばせるのかを明確にしておく必要がある。明確な目的意識が学習意欲を高める。

算数科

第4学年「保健室のデータから見えるもの ～調べ方と整理のしかた～」

しみず あきひと
清水 顕人

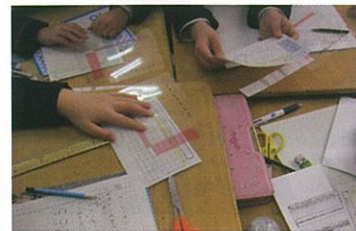
保健室のデータから、4年生のけがが他の学年よりも多いことを知った子どもたちは、二次元の表を用いて4年生のけがの特徴を調べ、けがを減らすことに役立てようとしてきました。本時は、グループで選択した学年について、自分で二つの観点を決めて二次元の表に表し、その学年のけがの特徴を見つけていきました。子どもたちは、「別の表と比べることで、気付くこともあった」「もっと別のことについてもデータを集めて調べたい」といった振り返りをノートに書くことができました。



「データ折りたたみカード」を使って、調べたい二つの観点が横に並ぶように折って調べていきました。



調べたい学年をグループで選択し、自分の選んだ二つの観点について表にまとめてけがの特徴を見いだしました。



「L字ガイド」を用いて、表の中のどの数値に着目したのか示しながら、気付いたことを話し合っていました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・調べたい学年や観点を子どもたちが自由に選択でき、主体的に取り組む姿が見られた。
- ・データから分かることと分からないこと等についても、話し合いによって検討していくとよい。

水、空気、金属（銅）の順で、物の温まり方を調べてきた子どもたち。本時は「銅以外の金属についても温まり方を調べたい」という子どもたちの思いを基に、ステンレスと銅を比較しながら温まり方を調べていきました。金属棒に塗った示温インクの色の変化から温度変化を捉えた子どもたちは、「銅とステンレスでは、熱せられた所から順に温まるという温まり方は同じだけれど、ステンレスよりも銅の方が早く温まるという温まりやすさに違いがある」と、捉えることができました。



熱湯を注いだステンレスと銅のマグカップをそれぞれ手に持つ様子から、温まり方には違いがありそうだと予想しました。



銅とステンレスの棒を同時に加熱し、比較することで、温まり方の共通点と差異点に気付くことができました。



予想&結果シートに記録したことを全体でも共有し、どの班も同じ結果になっていることを確かめ、考察していきました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・予想の時間を大切にすることで意欲的に実験を行い、振り返りによってさらに意欲が高まっていた。
- ・マグカップは教師による演示ではなく、子どもに実際に触らせると、追究意欲が高まったのではないかと。

電気がどのようにつくられ、使われているのかという電気の利用に興味をもちながら、電気をつくったりためたりできること、変換できることを学習してきた子どもたち。本時は、「同じ道具でも種類によって電気の使える時間は違うのだろうか」という学習課題を設定しました。そして、豆電球、LED、モーターをそれぞれ3種類用意し、その中から自分が調べたい物を選択して実験を進め、ペア結果まとめボードを使って話し合いながら、効率的な電気の使い方についての考えを深めていきました。



まず、実際の明るさや回る速さを確認することで、働きとつなぎながら、使える時間の違いを予想しました。



実験したい道具を相談して選択し、ペアに分かれて実験しました。そして、違う実験をした友達と結果を交流しました。



シールを用いて結果をグラフにまとめ、道具の種類によって電気の使われ方が違うことを日常生活とつないで考えました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・理科の学び方を学習できていて、自信をもってペア、グループ、全体で話し合い、考察を深められていた。
- ・班ごとに異なる実験をするなどの工夫があると、時間の短縮と追究意欲につながるのではないかと。

子どもたちは、幼稚園の青組さん（年長児）のために幼稚園と小学校との違いを紹介することを最終の目標として、紹介する内容を決めてきました。本時は、グループの友達と相談しながら、紹介のしかたを工夫していきました。まず、これまでの青組さんとの交流経験や前時に行った1年生へ紹介する活動を振り返りました。そして、青組さんが入学をもっと楽しみに思ってくれる紹介のしかたになるよう、さらに工夫することを考え、よりよいものにしていきました。



交流場面の写真で経験を想起し、「クイズと組み合わせる」、「体験できるようにする」等の工夫から選択しました。



分かりやすい紹介になるよう、紹介の内容が同じグループの友達と相談しながら、紹介のしかたを工夫していきました。



実際に他のグループの友達に聞いてもらうことで、青組さんが楽しみに思ってくれる紹介になっているかを確認しました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・紹介する活動を複数回行える単元構成の工夫により、見通しをもってよりよい紹介のしかたを考えていた。
- ・青組さんが何を楽しみに思っているかを具体的に取り上げることで、相手意識をより高めることができる。

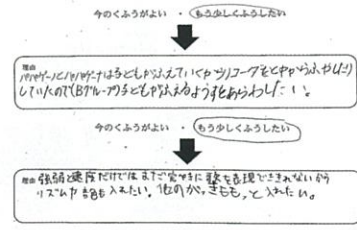
子どもたちはこれまで、グループごとに強弱や速度を変えて『魔法のすず』の合奏をしてきました。本時は「自分たちの『魔法のすず』を工夫しよう」という子どもたちの課題を基に、「パパゲーノの持つ魔法のすずなら…」等と、思い浮かべた情景に合うように強弱や速度を変化させていきました。その際、強弱や速度の視点を基に、鑑賞曲『魔笛』の中から自分たちの選んだ人物の歌を聴き直し、より思い浮かべた情景に近づくように、さまざまに工夫しながら合奏していきました。



自分たちの合奏を録音し、聴き直す「魔法タイム」を設けることで、思い浮かべた情景を表しているかを確認しました。



どのような情景を表すのか、強弱や速度をどのように変化させるのかをグループごとに伝えて、合奏を聴き合いました。



友だちの合奏を聴いて、自分たちの合奏に生かせることはないかを再考することで、次にしたいことを考えられました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・ICTの活用による「魔法タイム」には、意欲的に工夫を試し、情景に近づけようとする姿が見られた。
- ・より深まりのある合奏にするためには、曲自体のよさをしっかりと捉えた後に工夫していくとよい。

図画工作科

第1学年「お面をつけて大変身」

ぞうだ ともこ ・ きよとも ゆうき (支援員)
造田 朋子 ・ 清友 佑樹

これまで、形の「丸と角」「大小」や、色の「明暗」、材料の「硬軟」について段階的に学びながら自分がイメージした「強くてカッコいいドラゴン」等の面をつくってきた子どもたち。本時は、それらの視点から、自分が変身したいものに合わせて「工夫をもっと考えて飾りをつけよう」という課題を設定しました。「強いドラゴンの牙は尖った三角の形にしよう」「カラフルな鳥はいろいろな色のモールをつけよう」等と、イメージに合うように形や色、材料の視点から表し方を吟味していきました。



「あなたが選ぶのはどっち」の掲示を見て、今までに学んだ視点を振り返りながら、面をつくっていきました。



友達と見せ合うことで、自分の面の工夫を認めてもらったり、友達の面のすてきな工夫を見つけたりできました。



振り返りでは、前時の写真と比べ、自分のイメージに合うように形や色、材料の視点から工夫できたことを実感しました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・資料等や飾りのつくり方の提示、姿鏡の設置、材料の準備等、教室環境の視覚的支援が有効であった。
- ・同じようなイメージでも、表し方は多様にあることに気付かせるのとよかった。

家庭科

第6学年「にこにこ いきいき 食事で家族をハッピーに」

はが さまか
芳我 清加

前時までに考えていた献立を見直し、栄養バランスの偏りや留意点の見落としに気付いた子どもたちは、「課題を解決できる副菜を加えたい」「すでに考えたおかずを修正したい」という思いで「家族の心も体も喜ぶ献立を完成させよう」という学習課題を設定しました。本時は、自分や家族の好み、栄養バランス、色どり、旬、費用、統一感に留意しながら、友達と考えを交流したり、わが家のおかずレポートや食事構成カードを参考にしたりしながら、1食分の献立を考えていきました。



献立を毎日考えている家族の立場で、保護者の方が色どりや費用等について具体的な解決方法を助言してくださいました。



食事構成カードから副菜を選んだり、6群丸付けシートで栄養バランスを確かめたりしておかずを決定しました。



2年間の学びを掲示し、本題材の学びを既習や将来とつなぐことで自信を高めたり、家庭実践の意欲を高めたりしました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・保護者の方からの助言、給食の写真、食事構成カード等の支援が、自力解決の際に有効であった。
- ・個々に異なる課題を協働的に解決できるよう、班編制や交流の場を工夫する必要があったのではないか。

体育科

第2学年「高く 遠くへ レッツ ジャンプ 一走・跳の運動遊び」

やまし おきよ うちだ たまよ
山路 晃代 ・ 内田 珠世 (支援員)

速く走ることやリズムよく跳ぶことを単元の前半から楽しんできた子どもたちは、これまで経験したコースを基に、グループで楽しく走ったり跳んだりできるお気に入りのコースを作りました。しかし、スピードが落ちたり、リズムが悪かったりしたことから、本時は、「もっと楽しく遊べるコースにするには、どうすればいいのかな」という学習課題を設定し、解決していきました。その際、教師が提示したコースを基に、楽しく遊べる場の特徴を確認し、自分たちのコースを改善していきました。



経験したコースを蓄積している「チャレンジわくわくボックス」を用いて、お気に入りの場を確認していきました。



間を広げる、数を変更する等手がかりにして、より楽しく走ったり跳んだりできるコースへと改善していきました。



「にこにこグラフ」で楽しく遊べた場等について振り返り、「次は、組み合わせて遊びたい」という思いを共有しました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・よい動きをオノマトペや写真で残しておくことで、話し合いの手がかりになり、話す内容が明確になった。
- ・振り返りの際、友達どうしの交流を充実させることで、協働のよさをより実感させることができる。

体育科

第5学年「チームで連携 決めるぞシュート ～ボール運動(ゴール型)～」

やまもと けんた
山本 健太

単元のはじめ、守りの範囲を制限したグリッドゲーム①において、ゴールまで確実にボールを運ぶ「速攻」のしかたを身に付けました。次に守りの範囲を広げたグリッドゲーム②で、シュートをするためにスペースをつくり出す「遅攻」のしかたを身に付けました。そして本時、これまで身に付けてきた攻撃のしかたを生かすことのできる攻守の切り替えがあるゲーム③において、「さらに得点を増やすためにどんな作戦がよいだろう」という課題を設定し、その解決を目指しました。



「成功経験ピラミッド」で、これまで成功してきた作戦を想起しながら、本時の課題解決に生かしていきました。



「現在地丸わかりシート」を基に、どこからシュートしたか等を確認し、チームの課題について積極的に話し合いました。



「できた」「分かった」「伝えた」「支えた」「見つけた」の5観点で振り返り、次時に解決したいことを見いだしました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・成功体験を保障する単元構成により、どの子どもも自信をもってゲームに取り組むことができていた。
- ・チームの課題を捉える際に必要なデータを精選し、課題を捉えやすくしていく必要がある。

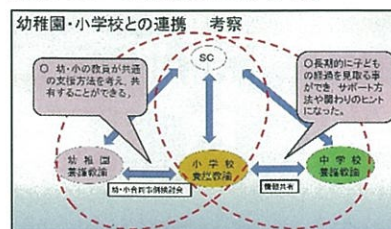
これまでに健康に過ごすための生活環境や生活リズムについて学習してきました。健康な生活の仕方への関心を高めてきた子どもたちは、本時に「自分の生活の中でどのようなことに気をつけたらいいのだろう」という学習課題を設定しました。1日の理想の生活と今の自分の生活とを比べたり、運動、食事等について学んだことを1週間実践したりしたことから、自己の課題を見つけていきました。また、授業後の討議では、養護教諭を中核とする本校の教育相談体制についても提案しました。



運動、食事等について学んだことを「チャレンジカード」を使って1週間実践し、生活の仕方の課題を見つけました。



理想の生活を表した「かさねるシート」と、今の自分の生活とを比較し、自己の課題を明確にしていきました。



幼・小・中の教育相談の連携を深める体制を整えることで、その子に合った長期的な支援を実現しようとしています。

授業と提案についてのご意見・ご指導

- ・学んだことを基に1週間実践する期間を単元内に設定したことで、課題が明確になり実践意欲が高まった。
- ・教育相談の組織づくりと合わせて、日頃から学校間での情報交換を密にしていける必要がある。

道徳の時間

教材文から、「なぜ、ひろ子さんは、料金不足のことを伝えることができたのか」ということを学習課題として設定しました。そして、自分なら伝えるかどうかについて話し合う中で、ひろ子の迷いを実感していきました。その後、ひろ子の「まさ子さん、きっと分かってくれる」という思いについて、「何を分かってくれるのか」ということを話し合う中で、「友達だからこそ伝えることが大切」「私も友達のことを信じて伝えたい」等、友情を支える信頼の大切さについての考えを深めました。



「友達を大切にするとはい」という質問紙調査の結果から、学級内の多様な考えを知り、教材の主人公の迷いをつないで考えました。



自分の思いを黒板の心メーターに表した後、自分と似た考えや異なった考えの友達と進んで交流しました。



迷いながらも「伝えよう」と思えた主人公の気持ちを考え、友達を大切にすることについての考えを深めました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・心メーターによって、子どもたちの多様な考えが明らかとなり、主体的な対話につながっていた。
- ・子どもたちが、その行為・行動を選択した根拠をしっかりと述べられるようにすることが大切である。

親友のロレンゾが嫌疑をかけられたことを知り、葛藤するアンドレ、サバイユ、ニコライの3人の姿から、「友達としてどのように接したらよいのだろう」と学習課題を設定しました。その後、どの登場人物の考えと自分の考えが近いかを選択し、その理由を話し合いました。そして「自首を勧めるのは、友達として正しいことを伝えたいからだよ」「逃がそうと考えたのは、友達のことを信じているからだよ」と対話を行う中で、友情の根底には相互の信頼があることを理解していきました。



「心のグラデーション」にそれぞれの立場を位置付けたことで、自分と友達との考えの違いに気付くことができました。



友達が悩む姿を見たロレンゾの気持ちを、役割演技を通して語り、互いに思い合っていることに気付きました。



友達と振り返りを読み合い、互いによいところを見つける相互評価を行うことで、価値の理解をさらに深めました。

授業討議でのご意見・ご指導

- ・対立軸に自分の考えを位置付け、違いを視覚的に捉えられるようにしたことで、進んで話し合えた。
- ・役割演技のさせ方を工夫すると、さらに友情の価値を深く理解することにつながったのではないかと。

これまで、自分が選んだ物語のおもしろさをカードに書いて、友達に伝えようとしてきた子どもたち。その際、見つけたおもしろさについて、どのように理由を書けばよいか、共通教材である『ニャーゴ』を基におもしろさの観点を考えていました。本時は、「おもしろさの観点をもっと見つけて、おもしろいと感じた理由を書こう」という学習課題を設定し、『ニャーゴ』のおもしろいと感じた文や言葉から、おもしろさの観点をさらに見つけていきました。



友達は、なぜ『ニャーゴ』の最後の一文が、おもしろいと感じたのかを考え、新たなおもしろさの観点を見つけました。



自分が選んださまざまな物語で、気持ちが変化するおもしろさを見つけたら、その場面に桃色の付箋を貼っていきました。



質問に答える形式のシートに振り返りを書き、できたことやこれからしたいことを次の学びに生かせるようにしました。

シンポジウムでのご意見

- ・担任と支援員との役割分担ができており、支援が必要な子どもに、適切な働きかけがなされていた。
- ・気持ちの変化という観点は、2年生の子どもに求めることとしては、少しハードルが高い目標ではないかと。

第100回記念講演

松尾 豊 先生「人工知能は人間を超えるか ～ディープラーニングの先にあるもの～」

1 人工知能について：ディープラーニングにできること

人工知能において顔認証等、正確な画像認識は非常に難しい技術でした。それが、大量の画像を収集処理していく中で高度な認識ができる技術（ディープラーニング）が開発され、画像認識の性能が一気に上がっていきました。2012年にこの技術が発表されたことを皮切りに、わずか5年間で、人間の認識を超えるまで性能が進展しました。これは、非常に急激な変化です。カンブリア紀には、眼の誕生により生物が爆発的に進化を遂げました。画像認識の精度が上がったことで、人工知能の世界でも同じことが起きると考えられています。



実際、このことで、目をもったロボットにできることが飛躍的に増えていきます。例えば、トマト収穫ロボットです。トマトは、大きさや形も違うので、よく見ながら気をつけて収穫しなければいけません。ロボットが大きさや形の違うトマトを見て、何度も試行錯誤しながら、採り方を微調整していくことで実用化が可能になってくると言われています。この技術が実用化されたら、今後農業の自動化が一気に進むと考えられます。

2 これからの社会に必要な力

人工知能が発達していくことで、人が行う作業はどんどん減っていきますが、機械を使う仕事、目的や価値を設定する仕事は人間でなければできません。そのため、どういう社会をつくりたいか、幸せで持続可能な社会とは何かを考える力が今後ますます重要になってきます。実際、自動運転技術が実用化された場合の責任や軍事利用について等の倫理面の議論は盛んに行われています。

これらの、人工知能の開発現場で活躍しているのは、主に20代の若い世代となっています。クリエイティブな考え方のできる若い人材が育つように、小中学校で学ばせてほしいと思います。

シンポジウム

全体授業を基に「学びに熱中する子どもの育成」について話し合いが進められました。



【水戸部 修治 先生】… 国語科学習指導の視点から

物語の中で自分が大好きだと感じたところについて交流させることで、どの子どもも活躍できる授業になると思います。大切なのは、物語を正確に読み取ること以上に、その内容を自分の経験と結び付けて読むことです。共通教材だけでは自分の経験と結び付けることが難しい子どもには、いろいろな本を準備し、その中から自分に合う1冊を手にするという環境づくりも、効果的な支援になります。

【坂井 聡 先生】… 特別支援教育を生かした学習指導の視点から

教師は「指導はきっちり、評価は寛容に」行い、子どもたちの多様性を受け入れていくことが重要です。支援員の先生は、子どもたちが自分の力で課題を解決できるような支援をしていたのが非常によかったと思います。このようにして子どもたちに成功体験を積ませることで、次の課題に対して自分でやってみようという学習意欲が生まれてくるのではないのでしょうか。

【岡田 涼 先生】… 学習意欲とその支援の視点から

物語のおもしろさを軸に据えた課題設定は、発達段階に合っているなと思いました。個々の子どもたちが見つけた物語のおもしろさには、きっとその子自身の好き嫌いや生活経験等の背景が影響していたはずですから、交流の場面で友達の見つけたおもしろさについて考えるときには、その子どもの背景まで踏まえて読みを深めていくことが大事なのではないかと思います。

水戸部 修治 先生「新学習指導要領の趣旨を生かした国語科の授業づくり」

1 質の高い言語活動について

主体的・対話的で深い学びを実現するためには、これまでの授業改善の取り組みを生かしつつ、言語活動の質を高めていかなければなりません。「質の高い言語活動」とは、育成を目指す資質・能力を教師も子どもも具体的に捉えることができ、子どもたちが学ぶ意義や価値、そして楽しさを実感できる言語活動です。さらに、そのような言語活動が子どもたちにとって課題解決の過程となるよう、単元を通して位置づいていることが重要です。



また、言語活動を設定する際には、当該単元で育む、子どもにとって必要な資質・能力は何かを明確にするために、[知識及び技能][思考力、判断力、表現力等]の指導事項等から指導のねらいを重点化したり、指導事項等を有機的に組み合わせたりすることが大切です。

2 言葉による見方・考え方を働かせる

言葉による見方・考え方を働かせるとは、子ども自身の主体的な課題解決の過程となる言語活動を通して、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めていくことです。これらの見方・考え方は、当該単元で指導する指導事項等そのものではなく、それらを身につける際に働かせるものでなければなりません。例えば、大好きな本のお気に入りの場面を紹介する際に、「自分は、この場面のこの言葉が大好き。その理由は・・・」というように、着目した言葉とその理由を表す言葉との関係を捉えていくことが挙げられます。人物の言動とそのときの気持ちを具体的に想像することを通して、なぜ自分はこの言葉に着目したのかをより自覚的に捉えていくのです。このように見方・考え方を働かせながら、指導事項を確実に身につけさせることが大切です。

七條 正典 先生「道徳の教科化全面実施に向けて

～道徳科の特性を生かした授業づくりと評価～

1 道徳の教科化において大切にしたいこと

教科化にともなう課題には、問題解決的な学習等の指導方法、教科書の活用や評価の実施、指導計画の作成、授業の量的確保と質的充実等、さまざまなものがあります。しかし、課題をどうするかばかり意識し過ぎると、何のためにという本旨が後回しになることがあります。道徳教育で、どのような重点目標を掲げ、どのような学校をつくるのか、どんな子どもを育てるのか、しっかりと定めることが大切です。



2 道徳科の特性を生かした授業づくり

道徳的諸価値の理解と、その価値を自分との関わりにおいて捉え、自分の生き方についての考えを深める授業が大切です。体験的な学習等を授業の中に位置づけることも考えられます。また、道徳的諸価値についての理解を基に、多面的・多角的に考えることも大切です。自分の考えと、板書された他のさまざまな見方・考え方とを見比べながら、自己内対話をして考えを深める学習もあるでしょう。他に、保護者や地域の方に参加してもらい、別の立場の視点を加えて、考えを深める学習も考えられます。賑やかに論を戦わせているだけの形式的な議論をしたり、問題の解決方法を話し合い、何が正しい等と合意形成したりするのではなく、自己を見つめ、多面的・多角的に考えるとはどういうことか、道徳科の本旨につながる指導の在り方を検討しましょう。人としてよりよく生きる上で大切なものとは何かを知り、何を大切にして自分はよりよい生き方をしていくのか、こういったことを考えていく中で、自分の生き方につながる学びができるのではないのでしょうか。

3 評価の際に大切にしたいこと

今回の評価は客観的な到達度の評価ではなく、一人一人が、何を自分の生き方につながる学びとして身につけたのか、また、自分のよさをさらに伸ばすための支援をするための評価として考えていきましょう。

坂井 聡 先生「障害を児童に理解できるように伝える授業とは」

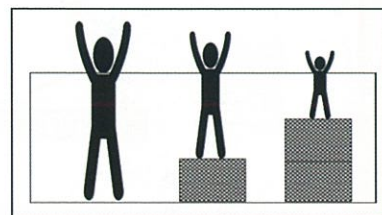
1 「障がい」についての周囲の理解

課題がある子どもへの支援は、周囲の理解が必要です。教師が障がいを子どもたちに説明する必要がある際、障がいを上手く説明できないと、ネガティブに受け止め、いじめにつながる可能性があります。また、周りの子どもたちも、その子どもの困っていることに気付いて、配慮することが大切です。周りの子どもたちが、障がいの有無にかかわらず、仲間を受け入れていくためには、教師がことばだけで「仲良くしないとだめだよ」等と言ってもうまくいきません。また、教師は、子どもたちに障がいとは誰もがもつものであることを教えていく必要があります。障がいとは一緒に勉強できなかつたり、遊べなかつたりすることをいうからです。例えば、コンタクトレンズを落とすと視覚障害を経験し、アキレス腱を切ったら身体障害を経験することと同じということです。逆に、みんなと一緒に活動できれば、障がいはなくなるのです。



2 坂井先生が行った障がいを理解できるように伝える授業

教師は、周りが障がいをつくっていることを子どもたちに教えていく必要があります。教えるための方法としては、例えば、身長の違いが同じ高さの台にのると背の低い人は景色を見ることができないイラストを用いて、どうしたら3人とも景色を見られるようになるかという課題を設定し、課題を解決していきます。そして、右のようなイラストを示して、周囲の人がちょっとした配慮を行うことで、同じ景色を見ながら次の学年に進んでいけることに気付かせる方法があります。このような方法で、教師が子どもたちに正しく障がいについて教え、子どもたちが小学生のうちに多様性を理解できるようにしておく必要があるのです。



岡田 涼 先生「心理学からみた学習意欲とその支援」

1 主体的に学ぶ意欲とは

主体的に学ぶ意欲（学習意欲）を捉えることは難しいものです。その理由として、学習意欲には実体がなく、時間や場所、状況によって変動することや、学習意欲の捉えが教師間で共通ではないということが挙げられます。心理学において、内発的動機づけと置き換えられます。

内発的に動機づけられた子どもは、学習内容に興味をもっている、学習に集中する、自分事として取り組んでいる、難度の高いことに挑戦するという姿として見られます。

2 主体的に学ぶ意欲を支える三つの視点

主体的に学ぶ意欲については、自律性、有能感、関係性の三つの視点から考えることができます。

自律性の視点からは、「自分が大事だと思うことに取り組んでいる」と感じられるような支援が考えられます。教師が命令や指示を出したり、師範ばかりで子どもが学習教材を自由に使えなかつたりする等の統制的な指導ではなく、子どもの要求を尋ねたり、話し合いを促したりする等、子どもの視点に立った指導が有効です。

有能感の視点からは、「いろいろなことができるようになっていく」と感じられるような支援が考えられます。方策としては、適度な挑戦目標を設定し、最終的にはやり遂げられるように配慮することが大切です。明確なねらいと学習計画を子どもと共有するとともに、それぞれの子どものに合った情報を提供する等の教育的なフィードバックまでが一貫していることが有能感を高めるために有効です。

関係性の視点からは、「まわりのみんなとよい関係を築けている」と感じられるような支援が考えられます。特に友達関係において、学習集団のメンバーそれぞれの成長が互いの喜びであるという協同的な目標を学級で共有し、協同の雰囲気をもたせかけていくことが大切です。



次年度研究に向けて

本年度の教育研究発表会でいただいたご意見



知識・技能の確実な定着や、協働的な学びによって学習意欲を育てるというスタンスは本質をついていると思うし、感銘を受けた。

関心度と自信度という視点を基に学習意欲を育てる働きかけを行い、併せて「思考力」も高めていくというのは、とても納得でき、分かりやすかった。

働きかけを子どもの実態に合わせて具体的に考えられていて、大変参考になった。子どもどうしの交流する場、深め合う場が多くなると更によいと思った。

個々の特徴が異なり、個に応じて学習意欲を高めることは、難しいと感じている。

次年度研究の方向性

- ★本年度の成果を基に学習意欲を育てることに重点を置きながら、引き続き、新しい時代に必要となる資質・能力をバランスよく育成する授業づくりを行う。
- ★個々の特徴や発達段階を考慮しつつ、自己を見つめる力を高めていくことで、より主体的に課題解決に取り組む子どもを育てていく。

あ と が き

教 頭 渡部 岳史

本年度は2年次研究として、「新たな問題を共有する場を位置づけた単元や題材の構成」「個に応じた学習意欲を育てる働きかけ」に重点を置き、授業を通して提案いたしました。県内外の関係諸機関から多くの方にご参会いただき、さまざまな立場から貴重なご意見をいただけたこと、職員一同感謝しております。記念すべき第100回の教育研究発表会の開催に際し、諸先輩方が積み上げてきた「思考力」育成を目指した授業づくりについての研究を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けての研究図書『授業を変える～5つの視点～』を発刊することができました。次年度、今までの歴史を礎に、新たな一步を踏み出していこうと考えています。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

編 集 委 員

白 川 章 弘	清 水 顕 人
中 家 啓 吾	尼 子 智 悠
竹 森 大 介	山 本 健 太
滝 井 康 隆	

平成30年3月16日

香川大学教育学部附属坂出小学校

TEL 0877-46-2692 FAX 0877-46-5218

E-mail sakaide@ed.kagawa-u.ac.jp

URL <http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~sakasho/>

